



東京YMCA

2014 12月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 発行人 廣田光司 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

聖書に学ぶ

変革をもたらす大胆なリーダーシップ

「出エジプト記」 “女たちによる赤ちゃん救出リレー”



松本 敏之 牧師

日本基督教団経堂緑岡教会牧師。東京神学大学院、ニューヨーク・ユニオン神学校で神学を学ぶ。日本基督教団宣教師としてブラジル・メソジスト教会牧師などを歴任。著書に、『マタイ福音書を読もう』全3巻（第3巻は2015年2月発行）他。

恒例の「世界YMCA/YWCA合同祈禱週」が11月9日から1週間開催されました。今年のテーマは「変革をもたらす大胆なリーダーシップ」。聖書に登場する女性たちの決断と行動について、全世界のYMCAとYWCAが共に考え祈りました。東京YMCAは11月13日、東京YWCA、在日本韓国YMCAと合同祈禱会を行い、松本敏之牧師からメッセージをいただきました。ご紹介します。

聖書「出エジプト記」の物語

紀元前1300年頃、エジプトで奴隷とされていたヘブライ人たちが力を増してきたため、エジプトの王ファラオは2人の助産婦に、「出産に立ち会ったときには、ヘブライ人の男の子を殺すように」と命じました。しかし彼女たちはエジプト王よりも「神を畏れていた」ので、王の命令に背き、赤ん坊を殺しません

の助産婦に、「出産に立ち会ったときには、ヘブライ人の男の子を殺すように」と命じました。しかし彼女たちはエジプト王よりも「神を畏れていた」ので、王の命令に背き、赤ん坊を殺しません

でした。怒った王に彼女たちは「ヘブライ人の女はエジプト人と違って丈夫で、助産婦が行く前に産んでしまうのです」と言い逃れをします。その後ファラオは、全国民に命じます。「生まれた男の子は一人残らずナイル川にほうり込め」と。しかしそれでも、命令に従わなかった母親がいました。後にエジプトのリーダーとなるモーセの母親、ヨケベドです。ここから「女たちによる赤ちゃん救出リレー」が始まります。

①母親は赤ちゃんを3か月間隠し、隠しきれなくなると防水した籠に入れた男の子は一人残らずナイル川にほうり込め」と。しかしそれでも、命令に従わなかった母親がいました。後にエジプトのリーダーとなるモーセの母親、ヨケベドです。ここから「女たちによる赤ちゃん救出リレー」が始まります。

見つけ、「これはきっとヘブライ人の子です」と言い、憐れに思います。③そのとき、遠くから見えていた赤ちゃんの姉のミリアムが王女に申し出ます。「この子に乳を飲ませるヘブライ人の乳母を呼んで参りましょうか」。王女が「そうしておくれ」と頼んだので、ミリアムは実の母親を乳母として連れてきます。

④王女は、「この子連れられて行って、わたしに代わって乳を飲ませておやり。手当はわたしが出しますから」といったので、母親はその子を引き取って乳を飲ませて育てます。その子はやがて王女の子となり、モーセと名づけられました。

ファラオの王女は、「この子はきっと、ヘブライ人の子です」という発言にみられるように、この子が自分の父親の政策の犠牲者であることを知っていました。彼女は、前々から「自分の父親は一体何とひどいことを命じているのだろう」と思っていたのかもしれない。彼女もまた、「非人道的な命令に従うよりは、良心の声に従う。人を恐れるより、神を畏れる」、そういう信仰をもっていたのではないのでしょうか。

また、ここにいた侍女たちも大事な貢献をしていることを見落としてはならないでしょう。彼女たちは、王女がファラオに背いていることを知っています。しかし誰もファラオに密告をしないので、王女に協力をするのです。もしもこの場に、例えば護衛の男がいたとしたら、職務に忠実であろうとして、あるいは自分の昇進をかけて、王に報告していたかもしれない。しかし女性たちはそうはしなかった。みんな王女と同じ気持ちであったからではないかと想像いたします。

またさらに彼女たちが、王女以外は地位のなかで、王女以外に彼女たち



For the Least of These (最も小さな者のために) 絵: 渡辺総一

「御心が行われますように、天におけるように地の上にも。」（マタイによる福音書6章10節）

女性たちの決断と行動

ここに登場する女性たちの行動は、現代に生きる私たちにも示唆に富んだものであると思います。もしも自分に非人道的な命令がくだされたらどうすればよいのか。非人道的な命令であっても、それがその国の法にのっとっているならば、その命令に従うことが「法的に正しい」ことであり、従わなければ罰せられるのです。

しかし彼女たちの行動は、そうしたこの世の法

「エジプト王は二人のヘブライ人の助産婦に命じた。一人はシフラといい、もう一人はプアといった。「お前たちがヘブライ人の女の産産を助けるときには、子どもの性別を確かめ、男の子ならば殺し、女の子ならば生かしておけ。」助産婦はいずれも神を畏れていたもので、エジプト王が命じたとおりにせず、男の子も生かしておいた。

(旧約聖書「出エジプト記」1章15節～2章10節 * 上記は1章15-17節)

い女性だということにも意味があると思います。男性よりも弱いとされてきた女性たちは、自らの弱さを了解することによって、かえって神さまに頼った。だからこそ真の意味で強いのです。それはパウロが「私は弱いと云うにこそ強い」(コリント12章10節)と言ったあの強さです。

しかし女らしき、男らしさを強調することは、控えるべきかもしれません。男であれ、女であれ、命を守る働きをこし、私たちが共に担っていかねばならないのです。同時に、こうした働きの背後には、神様が

赤三角

▼宗教改革500年を前に日本では初めてとなる合同礼拝が、東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂で11月30日に行われた▼「いつくしみと愛のあるところ」と題したこの集いは、第二バチカン公会議の「エキュメニズムに関する教令」発布50周年を記念したもの。カトリック教会、日本聖公会、日本福音ルーテル教会の合同で行われ、600人を超す参加者の祈りと画期的なシンポジウムの成功は、具体的な一致のシンボルとして教会史に記録されるに違いない▼しかし考えてみれば

「身体 body」を加えた標記は、調和のとれた全人的な成長を願う世界共通のYMCAの正章である▼世は刷新の時代というが、YMCAの先達は、多くの人々が願っていたエキュメニカル(教会再一致運動)な実践をも、既に先取りしていたのである。(東京ワイズメンスクラブ進藤重光)

